

水土里の郷  
わくわく  
探訪

## 14回目の「水土里の郷 わくわく探訪」 開催される!! ～農業用水のはたらきを探訪しよう～



農業用水利施設等の見学を通じて、施設の多面的機能や農業用水の働きについて理解と関心を深めてもらうために、7月24日(土)、「水土里の郷 わくわく探訪」が10年ぶりに三種町、大湊村で行われた。この「わくわく探訪」は、平成9年にスタートして今年で14回目の開催となったが、この日は秋田市の小学生とその保護者30名が参加した。

一行は、水土里ネット秋田(駐車場)での開講式を終えると、最初の探訪施設である羽根川ダム(三種町)へ向かった。現地では水土里ネット琴丘の田中理事長の歓迎挨拶に続き、牧野事務局長からダムの概要や農業用水の働きなどについて説明を受け、実際にダムに架かる吊り橋を渡り、景観を楽しみながらダムの役割に理解を深めていた。

その後、県内の土地改良施設としては特徴的な畑地かんがい施設(三種町)に向かい、はじめに八郎潟西部承水路から水をくみ上げる第1機場で、水土里ネット浜口の牧野理事長、畠山事務局長の説明を受け、灌漑の仕組みや農業用水、ポンプ施設などに関心を持ったようであった。



次に、八竜地区のメロン畑に移動し、畑の水利などについての説明やスプリンクラーの散水を見学した後、収穫体験を行い、同地区の主力品種のタカミメロンを1個ずつ摘み取った。突然のサプライズに参加者は「おいしそう」と笑顔を見せていた。

その後、大湊村に移動し、昼食をとり、大湊村干拓博物館と南部排水機場を見学し、八郎潟干拓事業の概要や歴史、大湊村が海水面より低いこと、排水機場の役割などを中心に説明を受けた。メモを取りながら盛んに質問するなど、参加者の関心の高さが伺えた。

心配された天候も何とか一日持ちこたえ、見学を終えた後、参加者から「次回も是非参加したい」という声スタッフがの疲れを癒してくれた。





9月5日(土)、あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議(山上信子会長)が主催するフォーラムが、秋田市文化会館小ホールで開催された。フォーラムは、地球人会議が設立された平成11年以降、毎年開催され、今年で12回目を迎えた。今年のテーマを「いっしょに考えよう！ 水土里のこと…」とし、「秋田県中山間ふるさと水と土フォーラム」(秋田県主催)、水土里ネット秋田との合同開催で行われ、約300名の参加があった。

はじめに、山上会長が「農業・農村の活性化は、良質な水・空気を生み、多様な生物を育むとともに、水源の涵養、美しい景観・伝統文化の継承、国土保全への貢献を行う。さらに、人が人らしく生きることを助け、子どもが自然に親しみ、豊かな人間性を育む。農村で農業が営まれることにより発揮される多面的機能の恩恵は、都市部に住む人を含め、全ての国民が享受しており、農業・農村を国家の基盤として将来の世代に確実に継承していくことを、農家だけの問題とせず、国民、県民の皆様と考える必要がある」と挨拶した。

## 中山間ふるさと水と土フォーラム

昨年、実施して好評を得た、ふるさとが育んだ文化や郷土芸能に触れて戴くため、羽後町の地域芸能「仙道番楽」が披露され、実演後の挨拶で保存会長の武田さんが、後継者育成のための苦労話などを語られ、参加者からの共感を得た。



## 21世紀土地改良区創造運動表彰式

秋田県知事賞の水土里ネット南旭川に対し、清野県農林水産部次長からの表彰に続き、奨励賞の水土里ネット二井田真中、特別賞の水土里ネット雄物川筋岩崎弁天地区に対し、本会高員会長からの表彰が行われた。



## 水土里の活動報告

「21 創造運動活動報告」では、知事賞を受賞した水土里ネット南旭川照井総務課長から、地元の小学校の理解を受け実施している「花壇づくり」や「施設見学会」、農地・水・環境保全向上対策の活動組織と連携をした農業用排水施設の管理活動等についての報告があり、続いて「遊休農地の再生くあきた農業体験施設」では、同体験農園運営会議の黒崎代表幹事から、都市近郊の耕作放棄地を再生した、地域住民参加型の「体験農園」活動への取組が報告された。



## わくわく探訪・感想文発表

旭川小学校4年佐藤優奈さんから、「水のみちの大切さ」と題して、「私たちが生きてゆくためには水が大切です。たくさんの人々のおかげで、いつも自由に水を使うことができます。川にごみをすてたり、水を出しっぱなしにしないよう、水を大事に考え、生活していきたい」と、次に、高清水小学校5年布川翠さんから、「水と農業のふかいかかわり」と題して、「大潟村について教わり、村を作った理由は戦後の食料不足をなくすことだとわかり、日本でも食料不足があったんだとびっくりした。4つの施設を見学して、どれも大切な役割をされており、人にとって大切な水が、農業とも深いかわりがあることが理解できた」と、感想文の発表があり参加者から盛大な拍手が沸いた。



## 基調講演「今、地球上で何がおきているか」



フォーラムの最後は、本県仙北市西木町出身の作家西木正明さんによる「今、地球上で何がおきているか」と題した基調講演があり、西木さんが世界160カ国以上を巡った取材経験から「20世紀は、戦争の世紀であった。利権の固まりである覇権へ抵抗した国が起こした戦争に始まり、共産主義と自由主義の対立による東西戦争、そして宗教、民族の巡る戦争は現在も続いている。これらの戦争が長期化した理由は、行きがかりにこだわり、現状を変えようとしなかったことだ。地球温暖化について、科学的証明がないので根拠がないとする学者がいるが、現実には、北極氷河の崩壊、北極海の氷解、日本でも温害によって野菜が商品価値を喪失している。水の問題に関しても、赤道直下のアフリカの高山の氷河溶解による水源の将来性、旧ソ連時代に行ったかんがい事業の戦略的ミスの結果、あるいは、サハラ砂漠の拡大化に起因する、世界最大級の2つの湖の枯渇がある。これらの問題には、行きがかりを捨て、危機感を持って、みんなが出来ることから対応する必要がある」と締めて頂いた。

## 活動協力金、ありがとうございました。

地球人会議では、継続的・発展的な活動を行うためには、予算確保が今後の課題として、「フォーラム2010」の当日、「協力金」箱を設置して、ご賛同、ご協力を頂ける方に活動資金の募金をお願いしたところ、4,501円のご厚意があった。

会議では、このご厚意の募金を、会議の活動、学校教育との連携・支援活動に役立たせて頂くこととしている。

## 地球人会議 運営委員会開催!!



8月10日(火)、本会第1会議室で、「あきた食料・環境・ふるさとを考える地球人会議」の、平成22年度運営委員会が開催され、役員選任、21年度事業報告・収支決算、22年度事業計画(案)・収支予算(案)が審議され、役員選任では、高畑進氏に代わり、監事の山上信子氏が会長に選任された。

また、各議案はいずれも原案どおり可決され、特に、22年度事業計画では、9月5日(日)開催の「地球人フォーラム2010」については、本県仙北市出身の作家・西木正明氏を講師に、「今、地球で何がおきているか」を演題に基調講演して頂くことを確認した。

# 2010秋田県中山間ふるさと水と土 『現地見学会』in 男鹿

～男鹿の歴史の息吹を感じ、ふるさと秋田の魅力を地域で守り継ぐ活動を～

平成22年9月4日(土)、本県農山村が有する自然、景観、伝統文化・芸能、郷土食などの地域資源の魅力について、広く県民に理解と関心を深め、土地改良施設などの保全・利活用に係わる地域住民活動への参加を促進することを目的に、男鹿市において現地見学会を開催しました。

通算7回目となる今回も、80名の募集に対し120名余りの応募があるなど毎年人気の見学会となっています。

男鹿市は、入道崎、寒風山など秋田県を代表する観光地ですが、現地見学会では、滝の頭円形分水工、南部排水機場などの農業用施設、和梨の産地化、すげ笠の保存、棚田の保全など集落の取り組みの説明、なまはげ太鼓などの地域芸能の鑑賞を通じ、地元農家などとの交流を図りました。



“なまはげ大橋”から見える緩やかな曲線を描く幾何学模様が鮮やかな“安全寺の棚田”。集落の長老などから、佐竹公が進めた植林事業、集落の由来、菅江真澄の足跡などの説明がありました。一部原野化された斜面の“千枚田”をみて、棚田保全の困難さを実感するとともに、復活を望む声があがっていました。

琴川集落に古くから伝わる市指定無形文化財“琴川のすげ笠”の伝承活動に取り組む“琴川すげ笠づくり伝承同好会”による実演が行われました。会員の高齢化などから存続が危ぶまれていたなか、農家や音楽家など20～30代の若者の団体“茄子地人協会”がその保存に協力しています。会員の佐藤毅さんは大龍寺でコントラバスを披露しました。

## その他の見学場所／昼食／郷土芸能



▲南部排水機場



▲中石梨の説明を聞く参加者



▲庭園でのコントラバス演奏



▲地元若者による“なまはげ太鼓”



▲滝の頭の円形分水工



▲庭園が美しい大龍寺



▲二の目淵と戸賀湾



▲あんぱら餅汁を提供するお母さん

現地見学会の詳細は、こちらのホームページをご覧ください。

秋田県農林水産部農山村振興課 <http://pref.akita.fpd.jump/gt/html>